

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0176000081 | | |
| 法人名 | クリーンハウス株式会社 | | |
| 事業所名 | グループホームたんぼぼ新館 | | |
| 所在地 | 北海道三笠市高美町444番地 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年7月4日 | 評価結果市町村受理日 | 令和2年7月31日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0176000081-00&ServiceCd=320&Type=search |
|-------------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------------|
| 評価機関名 | 株式会社ソーシャルリサーチ |
| 所在地 | 北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2 |
| 訪問調査日 | 令和2年7月17日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの出来る力、理解する力を把握しそれぞれの力に応じた接し方を心掛け、ここが自分の家と思い安心して暮らしていけるよう職員が常に寄り添いながら支援しています。
 天気の良い日はホーム周辺を散歩したり、ドライブに出かけたりホーム主催の行事(焼き肉会、ミニ縁日)で家族、町内の住民、市内の幼稚園・児童館の子供達と触れ合ってもらったり、三笠市主催の盆踊りや市民会館での歌、踊り、お茶、生け花等の文化行事にも参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームたんぼぼ新館は開設から14年目を迎える1ユニットの事業所です。三笠市内の系列3事業所と、運営推進会議、合同研修会、行事、災害時協力など、相互に連携しています。合同で行う毎年恒例のバーベキューやミニ縁日などに町内会の参加協力があり、地元の子供達の参加も多く、地域に根ざした運営をしています。職員はケアの向上を目指し、外部研修や合同研修によりスキルアップしています。介護計画作成時には利用者の言葉を重視し、日々の記録、アセスメント、モニタリングを丁寧に行い、理念に基づいたその人らしい生活の継続に努めています。事業所便りや「生活報告書」を毎月作成し、ブログも更新しながら、家族の知りたい情報を詳細に伝えています。また、協力医療機関以外の往診医を紹介する等、重度化や終末期に向けて利用者、家族の想いに沿った対応に努めています。コロナ禍で外出が困難な現状でも、職員の得意分野を活かしたレクリエーション活動で利用者を楽しませています。事業所はケア理念と共に、法人のビジョンである「生きる」介護を目指して、利用者の思いを大切に、互いの存在が安心に繋がる関係を築きながら、利用者の持つ力に着目し、必要な部分を最小限支えることで、笑顔や自信、満足に繋がるケアに取り組んでいます。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

| 項目 | 取組の成果 | | 項目 | 取組の成果 | |
|--|-----------------------|--|---|-----------------------|---|
| | ↓該当するものに○印 | | | ↓該当するものに○印 | |
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25) | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19) | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38) | <input type="radio"/> | 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20) | <input type="radio"/> | 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> | 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37) | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12) | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31) | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | | | |

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|---|---|--|---|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 介護理念を玄関に掲示し、出勤時に職員一人ひとりが目にする事で、その日一日意識して生活できるように心掛けています。また、施設内研修で取り上げながら理念の理解を深め、日々実践に努めています。 | 法人の全事業所共通のケア理念は、職員が目指す方向性を現わしています。玄関やパンフレットに掲げ、日々のケアに活かし、地域への浸透を図っています。職員には入職時を始め内部研修会でも、理念を踏まえたケアの基本姿勢を伝えていきます。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に加入し、集会や新年会などの行事に参加。利用者の通院時や買い物、散歩などで友人知人に声を掛けられた際には、今までの関係が途切れないように間に入りながら一人ひとりが地域の一員としていられるような関わり方に努めています。 | 事業所は地域との交流を大切に考えています。町内会の会合には職員が参加し、祭りや盆踊りには利用者も参加しています。3事業所合同主催の縁日やバーベキューには町内会の参加もあり、子供達も大勢集まり賑やかな行事となっています。傾聴、歌唱、演奏のボランティア訪問も利用者の楽しみとなっています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議の開催や町内、市内の行事(盆踊りや市民文化祭など)へ積極的に参加し、利用者と職員と一緒に楽しむことで、たんぼぼのあり方が地域により良いものとして知ってもらえるようにひらかれた支援をしています。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 家族や町内会の方々に案内を出し2ヶ月に一度開催。状況報告を行い、出された意見などは施設内で共有され、日々の支援に活かされています。4ユニットあるので、開催場所をローテーションで回し、日常の様子も見てもらえる環境にあります。 | 系列の3事業所合同で開催しています。事業所活動報告、利用者の状況、ヒヤリハットや事故報告を行い透明性を確保しています。行政や地域、利用者も参加しています。家族には議事録の配布や来訪時の声掛けにより、運営推進会議への参加を働きかけています。 | 現状では取り組みが家族の出席に結び付いていません。運営推進会議の意義を伝えながら、日程の調整や季節行事に合わせて開催するなど、家族が参加しやすい環境作りに努め、更なる会議の活性化に繋がるよう期待します。 |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議に参加していただき、状況報告をしています。日常的に不明な点等は電話連絡をさせていただき、協力関係を築いています。 | ふれあい健康センターが隣接しており、常に情報交換を行っています。三笠介護支援ボランティア事業の受け入れ、SOSネットワーク登録、事故報告書等の書類提出も窓口に出向き情報交換の機会とするなど、協力関係を築いています。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 年に2回は施設内研修会で題材に取りあげ、事例検討や実践を通して職員一人ひとりの理解を深めています。 | 身体拘束廃止に向けて、委員会の開催、外部・内部研修を行い、拘束をしないケアに取り組んでいます。対応が気になる場面では職員同士で注意を促し、センサー使用時は家族の同意書を得て、経過観察しています。指針は現在、見直しを行っています。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 身体拘束虐待防止適正化委員会があり、3ヶ月に一度委員が集まり、各ユニットでの困りごとなどを検討しています。開催後は、職員会議で職員全員に内容の共有、周知をしています。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------------------------|------|---|---|---|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援しています。 | 現状利用されている方がおらず、今後独居や身寄りのない方が入居される可能性も少なくないと思うので、外部研修などを通して積極的に制度の理解に努めたいです。 | | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居の際には、契約書などの書面をもとにわかりやすい言葉も使いながら口頭で説明しています。一つひとつ不明点がないか利用者本人や家族の表情なども見ながら行うようにしています。 | | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者には、日常の様子から気になることがあれば本人の思いを引き出せるような声掛けをして、想いが汲み取れるように意識しています。家族には、毎月のお手紙や来訪時には職員が声を掛け、気兼ねなく話しやすい環境をつくるようにしています。 | 家族には毎月事業所便りと個別の本人の写真や様子を掲載した報告書を送付しています。今回のコロナ禍で来訪が困難でも、ブログを更新し事業所の様子を伝え家族の安心に繋げています。職員は、利用者、家族と関わる中で、運営についての要望の把握に努めています。 | | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日常的に話しやすい環境に出来るように努めていますが、職員会議や面談で一人ひとりの思いを聞く機会を設けています。出された意見は、職場環境や職員間のことも考慮しながら出来るだけ反映させるように努めています。 | 管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを大切にしています。業務内や月1回の職員会議、年1回の個人面談で、職員の思いに耳を傾け、意見を引き出し、外部研修や休日、シフトの希望なども把握し、働く意欲の向上と質の確保に努めています。職員は各種委員を担い、ケアや運営に反映しています。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 離職や利用者の重度化に伴い、普段から勤務状況の把握に努め、職員の日々の変化が感じとれるように意識しています。他ユニットの協力を仰ぎながら休憩や休みの確保など負担軽減に努めています。 | | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員一人ひとりの持っている力が活かせるように行事や研修を職員同士で取り組み、互いに学ぶ力をつけています。施設外の研修会の案内は見えるように掲示することで、能力向上のきっかけ作りもしています。 | | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている | 施設外の研修会では積極的に声を掛け、他施設との情報交換や今後のつながりを意識しています。会社主催の研修会に参加を呼び掛け、より多くの職員が関わることで、支援の質の向上を目指しています。 | | | |
| Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前の面談で本人の状況確認や、担当者・家族からの情報も聞きながらより具体的に本人の思いを汲み取って、迎え入れています。毎日の変化は記録や口頭での申し送りを通して職員間で情報共有し、その日の対応を話し合っています。 | | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|-----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居時には現状の具体的な困りごとが聞きやすいですが、生活をしていく中でホーム側と家族との認識の違いが出てくることもあるので、面会時や電話など家族と常に会話をしながらより良い関係づくりが出来るように努めています。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ホームで出来ることや難しいことがあるなかで、相談を受けた際に、本人・家族などに確認し、出来る限り柔軟な対応を行っているよう努めている。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | その人らしさのある生活をお送っていただけるように日々の生活のなかで人生の先輩としてさまざまなことを教えてもらい、暮らしを共にする者同士の関係になれるよう努めている。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 来訪時の会話だけではなく、生活状況報告書など書面での伝達や希望に合わせ、こまめな電話連絡をするなど、本人同様に大切な存在として捉えています。 | | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 散歩や通院、買い物など地域との関わりのなかで知人や友人に会った際は職員が間入り、馴染みの関係を大切に、継続していけるような支援に努めている。 | 山菜採りや季節の花見、行きつけの美容院の利用、農協での買い物、馴染みの店での外食など昔住んでいた場所を訪ねています。これまで培った関係や習慣の継続を家族の支援も得て実現しています。事業所は来訪者を歓待し、お茶でもてなしています。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 食事の席やレクリエーション活動など利用者同士の関わりや性格を考慮したうえで、関わり合いや支え合えるような支援の配慮に努めている。 | | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 地域で会った際に近況報告などを伝え合ったりしている。また、ホームの行事へ声を掛けたり、何か困っているようなことがあればいつでもホームに寄っていただけるよう伝えていきます。 | | | |
| Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日頃から穏やかな雰囲気づくりを目指し、本人との会話ややりとりのなかで暮らしの希望や意向の把握に努めている。 | 会話が可能な利用者とは、話題を膨らませながら希望や要望の把握に努めています。発語が困難な場合は、生活歴を基に、バイタル、表情、仕草などから、小さな変化も見逃さないよう努め、本人本位の視点に立って検討しています。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人・家族との会話や入居時の基本情報などの書面を通じ、把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 気づきや変化を感じ取り、対応していけるよう記録や職員間でも話し合うことで情報を共有し合い現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 職員間でも意見交換を行ったうえでモニタリングやカンファレンスを実施し、また家族にも意見交換や確認のうえで、介護計画を作成している。 | 利用者ごとに担当職員が毎月モニタリングを行っています。介護支援専門員が中心となり、担当者会議と職員会議で最新の情報や気づき、ケアのアイデア等を話し合い、実情に即した介護計画を作成しています。利用者、家族の意向に加え、医師や看護師の意見も参考に短期3か月、長期6か月毎に見直しています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 記録の書き方や書式についても話し合い、よりスムーズな情報の共有ができるように取り組んでいる。職員間の周知のもと、話し合いや記録をベースに介護計画を見直し実践に取り組んでいる。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ユニット間の職員の異動を行い、既存にとられない支援や今、その時を大切にできる支援を提供できる環境のように思う。人が変われば視点も変わり、より良いサービスの提供が可能になるように努めています。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 外食やドライブ、散歩など本人の希望を聞き、積極的に支援している。また、ホームの行事には地域の方々(町内や幼稚園・児童館)にも声を掛け、お互いに知っていくことでより安全で豊かに暮らせるよう支援している。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居されているほとんどの方が市立病院へ通っており、家族や職員で対応している。また状況に応じ、家族と本人の了承のもと往診可能な東町ファミリークリニックに転院していただき対応している。 | 入居前から協力医療機関である市立病院をかかりつけ医としている利用者がほとんどで、通院支援は家族と職員で行っています。市外の医療機関への受診は家族対応となっています。利用者の重度化に伴い、月1回の往診対応の医療機関に移行するケースも増えています。看護師の職員が週1回、利用者の健康確認を行っています。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 非常勤看護師との相談や状況報告のもと適切な受診が受けられるよう努めている。週に一回の勤務ですが、別日には他ユニットで勤務しているので、状況把握もでき日常的に相談しやすい環境と感じている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|---|---|--|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 急遽の入院にも対応できるように、内服薬や既往歴など本人の状況をまとめた医療情報シートを作成している。またホームとしても出来る限りの柔軟な対応ができるように努めている。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる | 入居時には重度化や終末期ケアに向けた指針の説明を行い、本人・家族と話し合いを重ね、希望に寄り添ったケアに努めている。また終末期を迎える前には往診医に転院していただき家族とともに本人らしく最期を迎えられるような支援に努めている。 | 重度化や終末期に関わる指針を入居時に説明し同意を得ています。状態の変化ごとに、主治医、家族との話し合いを行っています。看取りを希望する場合は、改めて覚え書きを交わし、思いに沿った終末期を過ごすことができるよう支援しています。職員は、看取りケアについて外部・内部研修で学んでいます。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 会議での話し合いや急変時などの対応マニュアルを作成、また普通救命救急講習の受講をしており実践力を身に付ける取り組みを行っている。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | ハザードマップの入手やマニュアルの作成、年に2回火災避難訓練を消防署や地域の協力を得て取り組んでいる。また、できるだけ全職員が避難訓練に参加するかたちをとり、万が一の事態に備えられるようにしている。 | 年2回、夜間想定火災避難訓練を実施し、1回は消防署の指導を受けています。災害時備蓄、普通救命救急訓練の受講、防火設備の定期点検を実施しています。地域からの訓練参加は住民の高齢に伴い厳しくなっていますが、火災の場合に近隣の車庫を一時避難場所に活用可能との申し出を受けています。 | 夜間想定訓練には夜間専従職員の参加が望まれます。近隣の系列事業所との災害時連携体制を整備していますが、自然災害時では各事業所ごとの避難が優先となります。自然災害マニュアルを作成し、様々な災害を想定したシュミレーション、図上訓練、実施訓練を重ねる事を期待します。 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 暮らしを共にする者として、時には親しい声掛けをすることもありますが、人生の大先輩として利用者との向き合い方を研修会や会議、ときには現場などで行っている。 | 内部研修で接遇を学び、利用者への言葉遣いや語調などに気を配っています。利用者の居室のドアノックや入浴時や排泄時には、利用者の状況に応じてドア越しの見守りを行うなど、羞恥心やプライバシーに配慮しています。同性介助も要望に応じています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常の対話、やりとりのなかで本人の希望を汲み取り、実践していけるように努めている。自己決定の尊重の大事さを研修会や会議などを通じ、日々学んでいる。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している | 日々の暮らしのなかで、習慣化するのではなく、一人ひとりのその日にあった対応を心掛け、言葉や表情、行動に寄り添えるよう努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 希望を伝えられる方ばかりではないので、髪の毛の伸び具合や衣服の交換を職員が気にかけて声掛け支援するようにしています。誕生日や外出の機会には、いつもより着飾ってその時を楽しめる工夫をしています。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事も楽しみの一つと捉え、調理なども職員と一緒にやることや利用者や職員と一緒に食事をする中で、食べるのはあつという間ですが、準備から片づけまでの時間を常に一緒に楽しむようにしています。 | 調理専門職員が、献立は事前に決めず食材や天候、利用者の嗜好を考慮し、その日食べたい物を工夫しています。調理に関する一連の作業も利用者と一緒にしています。誕生日や行事食も、利用者の要望に応じて出前や外食も取り入れ、食べる喜びに繋がるように支援しています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事や水分量は記録に書きとめている。また食事や水分の確保が難しい場合は、時間をおくことや代替えした食事を摂っていただくなど柔軟な対応に努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 歯医者への往診をうけている。その際、口腔内のケアについてアドバイスをもらったり、自分で行える方には日常的にケアの声掛けをすることで清潔な状態が習慣化するよう支援している。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 記録や仕草、行動のなかから排泄のパターンの把握や必要に応じて羞恥の面に配慮した声掛けに努め、排泄の失敗が減るよう配慮に努めている。 | 自立している利用者が多く、個別の排泄パターンを把握し、タイミングや表情、動作などを見極めてトイレ排泄を支援しています。必要に応じて、同性介助、2人介助で対応し、ポータブルトイレの使用やベット上でのオムツ交換も、本人の負担軽減に配慮しています。下着や排泄用品は、身体状況に合わせて検討しています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 本人と予防改善にむけた相談や飲食物の工夫や運動の取り組みをしていけるよう朝の申し送り時に話し合い実践している。また、看護師からのアドバイスも頂いている。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている | 日中帯の3時間程度の限られた時間のなかでできるだけ希望に寄り添えるよう相談や配慮に努めている。 | 入浴は週2回湯につかれるよう支援し、困難な場合はシャワー浴、足浴、清拭で衛生保持に努めています。状況や要望に応じて、2人介助や同性介助で対応し、安心感につなげています。一番風呂や湯加減の調整、入浴後の飲物、好みの洗髪剤など、楽しめる工夫を行っています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 環境への配慮や夜間帯の様子、本人の表情、想いを大切に柔軟な対応に努めている。その日によっても状況が変化する場合もあるので、職員間で情報を共有しながら支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬内容や効能、副作用が把握できるよう服薬ファイルを作成している。また医師や非常勤看護師からどのようなことが考えられるかを聞き、変化に気づけるように努めている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの生活史の背景を活かした調理やレクリエーション活動、また環境面への配慮を心掛けている。 | | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 日常の会話のなかで、希望を取り入れ散歩や買い物、ドライブに出掛けることもあり、出来るだけ柔軟な対応ができるよう努めている。 | 今年はコロナ禍で様々な行事が中止となり、外出が困難な状況にあります。通常は町内会行事への参加、初詣、春の桜、秋の紅葉見物、散歩、山菜採り、果物狩り、外食など、大型車を活用し利用者全員で楽しむ機会を多く持っています。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご自身で少額ですがお金を所持されている方もいますが、そうではない方が大半です。常時必要なものに関しては、ホームで購入し立替分は月末にまとめて、家族に請求するかたちをとっています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している | 利用者からの希望があり、相手が初めての方の場合は家族連絡をして確認をとったうえで支援させていただくこともありますが、できるだけ柔軟な対応ができるよう努めている。また、利用者のなかには携帯電話を所有している方がいます。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 四季にあわせた装飾や混乱を招かないよう温かみのある色を使った案内表示を掲示するなど居心地の良く、住みやすい環境への配慮に努めている。 | 共有空間には、季節に応じて利用者と一緒に作った作品を飾っています。行事の写真や利用者が散歩中に摘んできた野花が飾られ、居心地の良い空間としています。換気に十分気を遣い、音や臭気にも配慮しています。週1回、利用者が自らモップ掛けを手伝うなど、生活リハビリを自然に行っています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングや居室だけではなく、窓から景色が見える廊下や共同スペースに椅子を配置し、その時の気持ちに配慮できるような居場所の工夫に努めている。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 一人ひとりの居室には、その人らしさを感じる個性が表れ、本人が使い慣れたものを中心に用意していただいている。また生活状況の変化に合わせて、相談や提案のもと職員と共に模様替えなども行っている。 | 居室には表札を掛け、クローゼット、暖房設備、照明、カーテン、温・湿度計を備えています。利用者は、生活に必要な品を持ち込み、生花や鉢花を置き成長を楽しんだり、折紙で装飾品を作るなど、好きなものに囲まれた自分の居室を作り上げています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 建物内はバリアフリーであり、生活のなかでのつまづきが少しの工夫でできることに変わる支援ができるよう安全面に配慮し、取り組んでいる。 | | |